

ATSUMA LOVERS

7月2日、コミュニティ運動推進協議会が、ガーデニング講習会を開き、会場は参加者の笑顔に包まれました。講師を務めたのは、今年も梅原智哉さん。巧みな話術と気さくな人柄が、幅広い世代の人気を集めています。花で町を元気にしている梅原さんに話を伺いました。



Vol.03 有限会社梅原商店
うめはら ともや 梅原 智哉さん(40歳)

花を通じて町に笑顔を

今年2月、3代目の社長として祖父の代から続く花や園芸用品などを扱う商店を受け継ぎました。厚真生まれで、中学まで生活。札幌市内の高校で寮生活を送り、埼玉県の大学卒業後は長野県の自動車関連会社に就職しました。

「勤めて5年目の大型連休だったと思います。実家に帰省して、1週間ほど店を手伝いました。これが、楽しくてね。なぜか、家を継ぐこと決めました」。28歳だった平成20年

8月に転職しました。札幌花き地方卸売市場などに通い、仕入れをする傍ら、花や植物の苗などを勉強。野菜なども自分で育てるそうです。「経験すると、育て方のコツなどが分かるので、自信を持ってアドバイスできますから」と、胸を張りました。

ガーデニングの講習会に向けて、1年ほどかけて準備しているとのこと。毎年、楽しみに参加している人もいて、鉢ひとつとってみても、で

きるだけ前の年と違う物を揃えるそうです。「展示会などでもいい鉢だなとか、珍しい花だなと思ったら、下調べして本州から調達することもあります。常連の参加者の喜ぶ顔を思い浮かべることもありますよ」。幅広い年代の人との交流も、講習会の楽しみの一つだと教えてくれました。吉野地区には、祖父の家が建っていました。胆振東部地震前に建物は無くなりましたが、跡地で夏野菜を育てていました。土砂崩れで畑は全滅しましたが、桜や木々の緑を思い浮かべながら、畑の復旧に汗を流しています。


昨年、少しだけコスモスの種をまき、町民から『きれいな花だね』って声を掛けられました。「吉野地区を花で飾りたいと思ったのです。声を掛けてくれる人もいて、うれしかったですよ」と口元を緩めました。

「人は、花を見ると心が和みます。これからも花を通じて、町内に笑顔を広めていきたいです」

あなたにとっての
愛すべき厚真を投稿してください

ATSUMA LOVERS

 フェイスブック
@atsumatownhokkaido

 インスタグラム
atsumalovers

ハッシュタグ #atsumalovers をつけてフェイスブックまたは
インスタグラムに投稿してください。